

Title	2018年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2019, 74, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75312">https://doi.org/10.18910/75312</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 2018 年度 意匠学会作品賞選考結果報告

2018 年度学会賞選考委員会

副委員長 大森正夫

### 受賞作品

村井陽平氏

「三味線に関するプロダクトデザインからの考察 ― 道具と人との新たな関係の構築を目指して」

### 受賞理由

村井陽平氏の作品「KARAKURI SHAMISEN」は、需要の低下とともに職人技が失われている十折れ三味線に着目し、職人が作り上げてきた技を現代の技術を生かして復活させ、収納および持ち運びの利点を踏襲しながらも、初心者が気軽に手に取って演奏を楽しむことができる楽器になるような工夫も取り入れたデザインである。特筆すべきは、古典音楽には門外漢と称する作者が、社会的問題意識からプロダクトデザイナーとしての責務として独自に調査研究と現存する職人との関わりを深め、その伝統的な技を学びつつも援用するに留まらず、希少な天然皮革から使用者を選ばないメンテナンスフリーのアラミド繊維の音響膜を取り入れたり、ギターフレッドのようなポジションに合わせた不均一な分解部分を特殊なホゾ組み加工機で実現したりと、演奏者への配慮や素材の選別によるコストの低減、さらにはコンパクトに収納するケースのデザインなど、研究への背景分析から工芸的試行とユーザーや販路の拡大までも視野に入れたデザイン作品としての商品化にまで昇華させた、秀逸なプロダクトデザイン作品として高く評価された。

### 選考経過

選考は、同志社大学寒梅館にて、面矢慎介選考委員会委員長の立ち会いの下に伊原久裕委員、川島洋一委員、佐藤敬二委員、大森正夫（座長）により行われた。以下は、パネル発表・展示された作品である。

・川島洋一・松原かおり

『『未来の動物の謝肉祭』福井県立音楽堂開館 20 周年記念公演における映像と音楽の共演』

・細野幸敏・今井美樹

「デザイン教育における産学連携プロジェクト」

・落合里麻

「個展+研究発表展木で作り，木について研究する。」

・村井陽平

「三味線に関するプロダクトデザインからの考察——道具と人との新たな関係の構築を目指して」

・島先京一

「紙コップ積み上げアート・ワークショップ——こども福祉と大学入門教育の事例」

・上田香

「京の伝統と現代の祈り」

パネル発表は6作品であったが、複数の視点からの作品であり、意匠学会が担うべきデザイン領域を取り巻く社会環境の諸相を時代的变化とともに考えさせられる発表であった。

川島洋一氏・松原かおり氏の福井工業大学でのプロジェクトと細野幸敏氏・今井美樹氏の大阪工業大学でのプロジェクト、さらには島先京一氏の活動は、学生指導を交えた産官学連携プロジェクトなどの市民参加型アートプロジェクトとして、いずれも取り組みの視点も方法も異なるものの継続性と完成度の面からも高く評価できるものであり、落合里麻氏、村井陽平氏、上田香氏の実物制作からの提案も工芸作品としての新提案箇所を評価できるものであった。

取り組みの視点が異なりすぎることから評価基準の統一についての意見交換を行った結果、パネル発表された作品相互の相対評価ではなく、それぞれの発表作品が属する領域での独創性や活動意義などを考慮に審査する方針で委員各自の見解をまとめることになった。

それぞれの委員の見解では、村井陽平氏の作品が最も高い評価となり、その内容は「受賞理由」に記載した通りである。